

2022.9.22 (木)
第11回例会
(通算3680回)

2022-2023 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「創り出そう身近な奉仕を 友情、愛情 そして熱意で」

2022-2023 年度
国際ロータリーテーマ



2022-2023 年度
R1会長 ジェニファー・ジョーンズ
第2500地区ガバナー
久木 佐知子 (旭川西 RC)

第85代会長 滝越 康雄
副会長 清水 輝彦
幹事 中島 政徳
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

月間テーマ	基本的教育と識字率向上月間
本日のプログラム	夜間例会「ひがし北海道の魅力を伝える！」(担当：プログラム委員会)
次週例会	全道中学親善硬式野球大会報告会(担当：青少年奉仕委員会)

- ロータリーソング：それでこそロータリー
- ソングリーダー：五十嵐 正弘君
- 会員数 104 名
- ビジター なし
- ゲスト 観光クリエイター 原田カーナ様

会長の時間

滝越 康雄会長



こんばんは。報告事項として、昨晚、奉仕プロジェクト委員会・吉田大委員長の主催で2つの委員会が開催されました。

特に東堂青少年奉仕委員長が仕切るアイスホッケー大会については大きな節目ですので、マイナスの方向ばかりを考えていましたけれども、東堂委員長には終わるころにグッドアイデアを出していただきました。後日、発表すると思いますけれども、その実施に向けて期待したいと思います。マイナス思考ではなく素晴らしいアイデアが、良い考えが浮かびましたので楽しみにしたいと思います。

私は、会長スピーチで毎度のこと、富士山の直滑降のように「すべてシーンとしてしまうので、会長スピーチを省略してしまおうか」と軽く考えていたら、脇S A Aから「歴代にない」とクレームが入りました。

今日のスピーチを考えてどうしようかと思っていたら、8日の例会でポール・ハリスの若かりし頃の話をした話と、今日はお酒が入る例会なのでお酒と2つを絡めて話します。

この『異説で解き明かす近現代史』という本は面白く

て、この中にその2つの要素が入っています。

そのひとつは、ポール・ハリスの生い立ちですけれども、先般の例会で、「記録が残っている秘密結社に関わっていて、云々」という部分がありました。その秘密結社は別に暗黒街でも何でもなく、フリーメーソンという友愛結社です。これは1500年代に石工組合から発展した職人団体で、それが長くやっているうちに友愛団体が変わって、そして秘密結社という形になり世間から「悪いことをしているのではないか」とか憶測を呼ぶのです。「それではいけない。閉鎖的な秘密結社を直そう」と全く別組織で開いたものが「ロータリークラブ」と「ライオンズクラブ」ということです。調べましたら、この本ばかりではなく、札幌東ロータリークラブの過去会長塚原房樹さんが「フリーメーソンに学ぶ」という寄稿でそれと同じことを書いていました。それがこの話題の本の1つです。

もう1つは、これは皆さんに使える話題として提供をします。禁酒法をご存じだと思います。いつでしたかNHKの「カラー画像で見る現代史」という1920年頃のドキュメンタリー番組にカラーを付けたものを放送していて、時代に切迫感を感じて、今日話そうと思いました。

禁酒法は、1918年から1933年までの15年間、酒を禁止する。この期間は先ほどのポール・ハリスの活動期という時代に重なるものです。

このような法律がなぜできたかということ、自動車の最

初のは、燃料はエタノール・アルコールでした。ところが、その自動車業界に莫大に投資して、ガソリンでアメリカの石油業界を牛耳っていた人物がロックフェラーなのです。彼は「このままエタノールに行ってしまうと、俺の投資した分がパーになる」として大きな政治献金をして、裏金を使って政治的に動いて、それで禁酒法を実施しました。

禁酒法を実施するとエタノールはダメで、ガソリンはOKです。アルコールの全部をボツにしてみました。ワインから何からすべてのアルコールをボツにしたので、その巻き添えでビールなども全部禁止になったことが、禁酒法の由来であり、裏舞台があるということです。これを覚えておくことが話の材料になります。そこがアメリカ的で面白いのは、禁止するがゆえにシカゴでアル・カポネとかギャングが活躍してしまう。お酒を禁止し、人間の欲望を禁止してしまうと、地下に潜ってかえってお酒が売れたという結果になってしまう。

この本で偶然に、何年か前に見た記憶があったものから無理に関連づけて今日のスピーチのテーマに漕ぎ着けました。

以上でございます。どうもありがとうございました。

■本日のプログラム■
「ひがし北海道の魅力を伝える！」

開会挨拶 クラブ運営委員会 佐藤 貴之委員長



皆さま、こんにちは。今日は、いつもとは違った特別な夜間例会となっております。まず、原田カーナさんをお迎えいた

しました。原田様、どうぞよろしくお願ひいたします。それから本日の準備について、村上プログラム委員長、小野寺副委員長、プログラムの皆さまがとても綿密に計画を練っております。今回は小野寺副委員長の色が強い例会かもしれませんが、ぜひ皆さまお楽しみいただければと思っております。

それでは、皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

※小野寺君によるKRC版・特急列車風車内アナウンスが会場に流れる

乾杯挨拶

北海道旅客鉄道株式会社 釧路支社長 戸川 達雄君

JR北海道釧路支社の戸川です。原田カーナさんにご後、お話しいただくということで、大変僣越です

がJRの私が最初の乾杯をさせていただきますと思います。

原田さんは、いろいろ観光の面で、釧路でとても活躍

いただいておりますが、私どもが走らせている『釧路湿原ノロッコ号』で、長く車内での案内をさせていただいております。この車内で、例えば「いま、タンチョウが見えます」や「鹿が見えます」と臨機応変にお話しいただくことが観光に来た方に届いて、この素晴らしいご案内でお客様に満足してお帰りいただく大きな力を原田さんにいただいているところであります。

昨日は、『夕日ノロッコ号』を運転しました。一昨日・昨日・今日と3日間は夕日の時間帯にノロッコ号を走らせて、列車の中から釧路湿原から夕日が沈むところを見るのです。実は昨日、私も乗車したのですが、そのとき原田さんが案内をされておりました。これも素晴らしいご案内で、お客様全員が総立ちで車窓から外を見て、日が沈む景色を皆さんでご覧いただきました。本当にいつも感謝をしております。

その原田さんにこれから列車の中、あるいはそれ以外の活躍の所での話をいただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

JR鉄道の場合、乾杯をする時に「乾杯」ではなく「出発進行」ですることがありまして、少し恥ずかしいですけれども、要するに駅にある信号機が赤から青に変わり準備ができました。そして列車の方も時刻になりポイントも替って万事OKで、「これから先、列車の走行が始まりますよ」という意味で「出発進行」と言うことになっております。心苦しいのですけれども「出発進行」で乾杯をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

皆さん、それでは今回の出発を宣言させていただきたいと思ひます。

「出発進行」
ありがとうございました。

クラブ運営委員会 佐藤 貴之委員長

皆さま、お食事しながら耳の方だけお貸しいただければと思ひます。私から本日のお客様、原田カーナ様のご紹介をさせていただきたいと思ひます。

原田カーナ様は、元々はバスガイドからスタートされております。そこから「バスガイドができるボールペン画家」としてデビューされておりますが、その後、活動が多岐に亘り、ご自分でも何が何だか分からなくなっているということがございます。

現在は観光クリエイターとして開業をされております。観光クリエイターは、現在、国内では原田カーナ



さんだけということで、大変貴重な存在とっております。

「年齢は非公表」となっておりますが、実は私、原田カーナさんと同級生です。ですから、年齢の方はお察しいただければと思います。

それでは、原田カーナさん、準備はよろしいでしょうか。ご登壇をよろしく願いたします。

観光クリエイター 原田 カーナ様



今日は、お招きいただきましてありがとうございます。

※釧網線（ノロッコ号）の車窓の映像をスクリーンで

映しながら講演。

もう出発していますね。それでは、皆さま今日は『釧路湿原ノロッコ号・特別ロータリー号』にご乗車いただきまして誠にありがとうございます。今日のガイドは原田です。どうぞ最後までよろしく願いたします。（拍手）ありがとうございます。今日はこの調子で30分、しゃべり通します。どうぞ皆さまお食事を楽しみながら景色をお楽しみください。

早速ですが、進行方向の左手には岩保木水門が見えてまいりました。手前に見えている新しい建物が、平成2年に完成した新岩保木水門で、その奥に見える古い木造の建物が昭和6年に設けられました旧岩保木水門です。その後方に広がっているのが釧路湿原国立公園です。

ご覧のように、釧路湿原の中は手つかずの状態です。自然が残されています。昔は海の底だった所で、底なし沼が広がっており、塩分も強いので開拓をすることができませんでした。昔は開拓が進まず「不毛の大地」と揶揄されましたが、この不毛の大地こそが貴重な動植物の生息地であると後に高く評価され、国内第1号のラムサール条約登録湿地、そして国内では28番目の国立公園の指定を受けたのです。

いまでも湿原の中は底なし沼が広がっておりますので、中に入ることはできません。囲むようにいくつか木道を設けていますので、木道を使いますと散策を楽しむことができます。展望台もあります。中でも人気の展望台が細岡展望台です。細岡展望台へは鉄道の場合、次の釧路湿原駅で降りて徒歩で15分ほど登った所にあります。途中のビジターズラウンジでは、釧路湿原の資料や写真パネルと共に喫茶コーナーではゆっくりとくつろぐこともできます。

通称『大観望』とも呼ばれています。2019年、NHKテレビ『ブラタモリ』でタモリさんも訪れている展望台となっています。また、トリップアドバイザー

では、2019年に『日本人が選ぶ日本で一番美しい展望台』にも選ばれています。

釧路湿原駅の駅舎は、タンチョウが羽を広げたイメージでつくられ、ログハウス調の無人駅となっています。次は釧路湿原駅に停まります。停車時間は僅かです。こちらからお出かけのお客様、どうぞお気をつけて

いってらっしゃいませ。このような感じはずっとしゃべっていきますので、耳を塞がないでください。

本当はここで車掌さんのアナウンスが入ります。

支社長に怒られない程度にお話しをしますと、JRは「15秒単位」で計算し列車が走っています。私はバスガイド出身なので、5分の遅延でもまだ短い方ですけれども、「15秒」それはすごい遅延になってしまう世界です。そして車掌さんがアナウンスを入れるタイミングも緻密に計算されています。いろいろな所でガイドをしているのですが、ノロッコ号はやっぱり秒刻みです。「ここで車掌さんが入るから、ここで切らなければいけない」とかを毎日考えながら、与えられた時間は1分・2分の世界でガイドをさせていただいています。



私はバスガイド出身ですけれども、実はノロッコ号に乗務している方が長いのです。バスガイドはトータルすると12年～13年ぐらしか経験がなくて、ノロッコ号は、もう20周年の時も30周年の時も、もう17年乗っているのです。いまのアナウンスやガイドの基礎はノロッコ号、JR北海道釧路支社さんで勉強をさせていただきました。そして、いろいろな方に励ましていただき、ここまで来ている感じです。

そして、今日は『夕日ノロッコ号』の最終日でした。やはり、イレギュラーな乗務ということ、それに対応できるガイドばかりでもないのです。今日は私が夕日ノロッコ号のガイド担当の日だったのですけれども休んで、今日こちらに來させていただきます。新人さんのガイド育成も行っています。

それでは、釧路湿原駅に停車しました。ここで降りる方がたくさんいらっしゃいます。いまは細岡展望台に大型バスが上がる事ができないので、観光のお客様は自家用車やレンタカー以外であれば鉄道でしか細岡展望台に上がれません。それも考えると本当に貴重な路線だと思っています。

今日の車窓風景はずっと左ですから。本当は右手に駅が見えていて、みんなが右に向かって駅舎の写真を撮って盛り上がっている最中です。今日のお客様はずっと左の景色をお楽しみください。

それでは出発しました。いま登っている坂は、冬に走

るSL冬の湿原号の機関車が登る一番大変な坂道です。マニアの方・ファンの方には、たまらない坂道なのです。一瞬ですけれどもね。



それでは、進行方向の左手、木立を通して釧路湿原の広がりをご覧ください。釧路湿原では短い夏を競うように様々な植物が咲き、また紅葉も楽しめます。いまの季節はだいぶ色づいてきていて、秋の釧路湿原を楽しむことができます。

手前に見えてくる川が釧路川です。釧路川には「幻の魚」と言われるイトウが息しています。釣りやカヌーを楽しむこともできますが、特別保護地区ですので釣りは「キャッチ & リリース」。カヌーは「カヌーステーション以外の乗降が制限」されています。次の駅を出ると「細岡カヌーステーション」もご覧いただけます。この辺りが、今年の釧路湿原ノロッコ号のポスターにもなっている所です。

細岡駅も無人駅です。この駅を利用される観光のお客様はどのような方なのだろうと思いつつ見ているのですが、この細岡駅でカヌー会社さんとお待ち合わせをしてカヌーにお出かけされる方が多いようです。釧路川は、阿寒・摩周国立公園の屈斜路湖を源に釧路湿原を潤し釧路の街を流れ太平洋へと注いでおります。一級河川ですがダムはありません。湿原が水量調整してくれるからです。カヌー愛好家たちにとっては憧れの川のひとつだそうです。次は細岡駅に停まります。

それでは細岡駅を出発します。さて、今日の手窓からはご覧いただけるでしょうか。進行方向の左手には細岡カヌーステーションがご覧いただけます。この先の塘路湖からこの細岡のカヌーステーションまでを1時間30分をかけて釧路川での川下りを楽しむことができます。お客様、左右には低層湿原が広がっています。この景色は右を見てほしいのですが、今日のお客様は左しかご覧いただけません。ここはタンチョウが住んでいます。だいたい毎日ノロッコ号に乗っていますので、タンチョウのいる場所やエゾシカが出て来る所はだいぶ覚えてきたのです。いま何となく徐行がかかっていますけれども、普段は徐行がかからない所なのです。必ず徐行をしなければいけない所は決まっていますが、ここは徐行区間ではないのですが、これを撮っている時の今日の運転手さんは徐行をかけてくれています。右側のタンチョウを見ている運転手さんの采配によって徐行をかけたりスルーをしたりします。

右にタンチョウが見えますね。タンチョウは、もしい

たら大きいから比較的気づきやすいです。身長は155cm前後、羽を広げると2m、体重は7kg～12kgと日本最大の鳥です。体全体が白く、翼と首が黒く、頭が赤いことが特徴です。

昔は本州各地でも見ることができましたが、乱獲や開発などにより一時は絶滅したと言われました。でも人が入れなかったこの釧路湿原に僅かなタンチョウが生き残っていたのです。生き残っていたタンチョウを保護し、現在国内では、釧路湿原を中心に北海道全域で2,000羽ほど確認されています。昭和27年には、国の特別天然記念物の指定を受けています。

これからタンチョウたちは恋の季節を迎えます。うまくつがいになると春には卵を2つ産みます。でも、強い方が生き残るということで1羽でも育てられたら良い方だそうです。ヒナの色は保護色のいま見ていただきましたヨシ・スゲと同じ黄土色からスタートします。この辺りはエゾシカも多く出てきますので皆さまお気をつけください。進行方向の左手には、沼が2つ見えてきます。この沼、暑くなってくるとエゾシカがよく浸かっている沼なのです。今日はどうでしょうか。皆さん一緒に探しながら行きたいと思います。鹿は川を泳いだり、池に入ったりする生き物なのです。この沼、今日は浸かっている。ではもう1つの沼がありますが、この沼も今日は浸かっているようです。多い時は5～6頭が首までスッポリ浸かっているところを見ることがあります。まるで鹿が露天風呂に入っているような感じです。ですから、暑くなってきた真夏の釧路湿原ノロッコ号もお勧めです。

鹿は全道でいま60,000頭ほどが確認されています。アイヌ語では「ユク」、獲物という意味です。

再び木立を通して釧路川が接近して見えてきます。釧路川は、北海道では石狩川・天塩川・十勝川に続いて4番目に長い川です。初めて釧路川を見た方は「もっと清流だと思っていて」と思っていた方も多いのですが、源部分に当たる屈斜路湖付近では川の底の石を、川の水が澄んでい



るため、見ることはできます。この辺りは川の底が泥炭になっているので、このような土色に見えます。ですからいま皆さまに見えておられます川の色が釧路湿原の色ということになります。

釧路湿原を代表する景観のひとつ、釧路川の蛇行の様子いくつかありますが、そのうちのひとつを皆さまが一番近い所からご覧いただけます。それでは先頭1号車のお客様から順に進行方向左手をご覧ください。釧路川の蛇行とノロッコ号が一番接近するビューポイントです。鹿がいませんか。タンチョウはいませんか。

この辺り、鹿やタンチョウやアオサギも出て来てくれています。ときにはこのノロッコ号に時間を合わせてカヌーを楽しんでいる方の姿もご覧いただける場所です。あっ、カヌーの方いますよ。カヌーの方はいま偶然、ここに居合わせているわけではなく、このロータリー号で通過するお客様に合わせて待ってくださっているのです。そしてノロッコ号に向かって手を振ることも楽しみのひとつだそうです。どうぞ皆さまも手を振ってお返してください。今日も時間ピッタリに会えましたね。すごい大サービスですね。このようなカヌーを私は見たことがありません。たくさん来ましたよ。すごいですよね。

私はカヌーガイドではありませんが、仕事柄カヌーに乗ることも多いのですが、カヌーガイドさんも「ノロッコ号の人が喜ぶから手を振ってあげてください」という案内をしています。

こう考えると、観光はいろいろな方たちと関わって成り立っている産業なのです。このように毎日、触れていますけれども、みんなでこのようにつくっていることを味わうことができます。

釧路湿原を代表する景観のひとつ釧路川の蛇行の様子いくつかありますが、そのうちのひとつを今日は皆さまに一番近い所からゆっくりご覧いただいています。今日の運転手さん、最徐行です。全然動きませんね。これも裏話です。一瞬、「あれ、今日ノロッコ号が徐行をかけ過ぎて止まってしまったのではないか」と思うことがあります。でも、止まってしまうと事故扱いになってしまい、その後の発車は釧路駅にある司令室から発車の指令をもらわないとできないので、止まることはないですけれども、今日の運転手さんは、すごく技術がある方ですね。ほとんど止まるか止まらないかの最徐行をかけています。ノロッコ号に乗ったことがある方はいると思うのですが、その時の天気によっても、またガイドする人の観点も、運転手さんによっても采配が少しずつ違うので、本当に何度乗っても面白い観光列車ですので、またご乗車いただきたいと思えます。すごいですね、今日の運転手さんは随分徐行をかけていますね。

釧路湿原は、釧路市・釧路町・標茶町・鶴居村の4つの市町村にまたがっています。国内にある233カ所の湿原の総面積のうちの60%を占める国内最大の湿原です。昔は海の底だった所で、その海跡湖や沼がいまも数多く点在し、その中でも塘路湖・シラルト口湖・達古武湖は湿原三湖と呼ばれています。釧路湿原東部には、釧路川が緩やかに蛇行をすところが見られ、周辺ではタンチョウを含む水鳥の姿も見ることができます。

昭和55年には、国内で初めてのラムサール条約登録湿地になりました。『ラムサール条約』の正式名とは「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条

約」、これが正式名です。長いので初めて国際会議が行われたイランのラムサールの地名をとって『ラムサール条約』と呼ばれています。水鳥の他にも、ここでしか見られないキタサンショウウオやエゾカオジロトンボなどの生き物、ヨシやスゲ、ハンノキなどの植物、およそ2,000種類にも及ぶ貴重な動植物の生息地であることが高く評価され、国内では28番目・北海道では最も新しい6番目の国立公園の指定を受けました。昭和62年7月31日のことです。こうして釧路湿原国立公園が誕生したのです。

ノロッコ号は、このように釧路湿原を左手に見ながら観光ポイントではスピードを落として走ってまいります。進行方向左手には、廃屋が見えてきます。ここに開拓に入った家があったようです。道路がありませんので、裏を流れる釧路川を水路として移動していたようです。今年一気に崩れました。

この辺りから釧路湿原特有のヤチハンノキの林を抜けて行きます。

ところで皆さま、車掌さんから配られる乗車証明書はご覧になりましたでしょうか。毎年デザインが変わる乗車証明書ですが、今日の特別号には特別な乗車証明書もご用意しておりますので、後ほどお受け取りください。

そして、この釧路湿原ノロッコ号は鉄道の旅を楽しんでいただきたい、その思いから誕生しました。広くとった展望窓が特徴で、トロロコ式のノロノロ走る列車「ノロッコ号」と名付けられました。釧路湿原ノロッコ号は今年で33年目を迎えています。そして2020年には車掌さんの制服がリニューアルされています。釧路湿原のタンチョウと釧路の夕日をイラストにし、ポロシャツには釧路湿原ノロッコ号の伝統カラーを使用しています。その制服のデザイン・イラストを担当させていただきましたのは私です。

それでは、終着・塘路駅に近づいて参りました。塘路駅を出て左手にはミニ展望台があります。停車中は、展望台の上からノロッコ号を俯瞰して望むことができます。

塘路駅を出てさらに15分ほど歩くと釧路湿原最大の海跡湖・塘路湖があります。湖周辺には、エコミュージアムセンターや標茶町博物館があり自然・歴史・文化などにも触れることができます。さらに車で15分ほど走ると標茶町市街地に行くことができます。温泉宿泊施設もありますので、お時間と機会があるお客様は足を運んでみてはいかがでしょうか。

さて、皆さま、約30分にわたる特別ロータリー号・ノロッコ号での一時はいかがでしたでしょうか。皆さまには、秋の始まりの釧路湿原をご覧いただきました。これから冬を迎え、ここは雪原に変わります。冬はここを『SL冬の湿原号』が走ります。四季折々、様々な表情を見せる釧路湿原へまたぜひお越しくださいませ

せ。またのお越しをお待ちいたしております。
今日のご乗車いただきまして誠にありがとうございました。

※小野寺君によるKRC版・特急列車風車内販売アナウンスが会場に流れる

PRタイム 観光クリエイター 原田 カーナ様



今日は本当にお声がけをいただきましてありがとうございます。

PRタイムということで、何をしゃべったら良いのかな

と思って。活動が本当に多岐に亘っているので、8個に絞りましたので聞いてください。

まず、今日の乗務をご一緒いただきました小野寺さんと出会ったのは、FMくしろの『テツ男テツ子の部屋』という全国の鉄道ファンが聞いている番組の準レギュラーをしていて、小野寺さんと一緒にお話をしたことがきっかけです。もうひとつ、JR北海道の安全ビデオと一緒に出演しています。社外に出ることはないのですけれども支社長、見てください。私と小野寺さんが釧路新聞の星さんといつものメンバーで映っていますので見てください。

私は、毎月第2金曜日の朝、FMくしろの『バス酔いするバスガイド・原田カーナの観光ニュース』という枠を持っていますので、朝の出勤時にぜひ聞いてください。そしてお配りしましたボールペンは、先月の『財界さっぽろ』『月刊クオリティ』でご紹介いただいております。このボールペンが「JR北海道」と「コーチャンフォー」と「佐藤紙店」と「地元のイラストレーター」を起用した異業種連携ということで載せていただいています。これには「三菱鉛筆・ユニ」さんも関わってまして、ユニさんに今いろいろと調整をしてもらい次の展開が始まるということで、楽しみです。

私は異業種連携をモットーに絵を描いているのです。普段はガイドやノロッコ号のアナウンスなどをしていますが、ノロッコ号の乗務中にスカウトを受けまして、もうひとつ仕事が増えたのです。もうひとつの仕事がSTVのレポーターもやっています。あと、テレビ東京などの『原田カーナの旅』という特集もシリーズでやってもらっています。これはこちらで放送はないのですけれども機会があればよろしく願います。

勉強もしています。普段は『ひがし北海道広域連携のDMO』と『北海道大学観光学高等研究センター』と『北海道観光振興機構』に所属して履修勉強をさせていただき、そこで戦略やデータもらって商品開発や

観光現場の創造という仕事をしているので「観光クリエイター」としています。

主に担当していることは、ピーチアビエーションさんで、Peachのプロモーションなどにも入っていて時々出てきますので良かったらSMSなどで見てください。

あとは絵です。絵は4～5年前に取り上げてもらったことがきっかけで、元々絵を描いていたわけではないし、絵を仕事にしていくということは正直なくて、あくまで私は観光の仕事をしたいので、その派生としてマイクだけではなく絵でも伝えていけるようにしたいということで絵を描いています。

例えば、『厚岸ウイスキー』の「牡蠣の子守唄」のラベル画や、『はたご家』さんに行くともらえる「牡蠣1人前サービス」を描かせていただいたり、『パレスボウル』さんのボルダリングのCM漫画も、『JR北海道』さん、『トヨタレクサス鳥取店』さんのCMなども描かせてもらったり、今までに50作品ぐらい起用をいただいています。自分で絵を描くことはなく、頼まれて描くことをひたすらやっていて、必ず商品になるものをやっています。

これから出るご案内として、『総合印刷』さんと『コーチャンフォー』さんから年賀状の冊子が出ます。原田カーナページがありますので、そちらをお使いいただけると総合印刷さんもコーチャンフォーも助かりますのでよろしく願います。

普段は、ツアーオーダーを受けてオーダー制のガイドも仕事をしているので、もし「このような旅行がしたい」という時、出張して来るお仲間、遊びに来るお友だちがいる、という時にも気軽にお声がけください。もし「自分だけでは大変」というお友だちがおりましたら今年度から『釧路市ふるさと納税・原田カーナの旅』という商品も出ています。1口40万円ぐらいでやりますのでぜひご紹介いただければと思います。

そして最後は、10月に『川湯ノロッコ号』もあります。その乗車証明書なども担当をしていますから、どこかでまた皆さまとお会いできると思いますので、ぜひその時にはよろしく願います。

今日はありがとうございました。

※小野寺君によるKRC版・特急列車風目的地到着アナウンスが会場に流れる



プログラム委員会 村上 祐二委員長

皆さまお気づきの方もいらっしゃると思いますが、本日、例会の中で流させていただいた音声はすべて小野寺副委員長が自作でやっていたものでございます。(拍手) よろしくお願ひします。ありがとうございます。



本日の例会もお時間となりましたので、ここで皆さんと輪になって「手に手つないで」を歌いたと思いますので準備のほどをよろしくお願ひいたします。

(手に手つないで 斉唱)

中締め挨拶 脇 弘幸パスト会長



皆さん、お疲れ様でございます。ご指名ですので、中締めのご挨拶をさせていただきます。ご指名と言いましても先日、村上委員長から「脇

さん中締め頼みますよ。誰もやる人いないのです」というような軽いタッチでお話しがありましたので、それは大変だということで、中締めをさせていただくことになりました。

まずは、原田カーナさん、いろいろなことをたくさん行われてすごいですね。バスガイドの経験もあり、ノロッコ号のガイドもあり、ということで、“さすが”

というところで、とても聞きやすい声と滑らかな口調で楽しく聞かせていただきました。そしてこの例会、



最後までお付き合いいただきまして本当にありがとうございました。

今年度もスタートをして3カ月が経つわけです。

三役の皆さんも随分慣れてきて余裕ができて来たところではありますが、まだまだ先はあります。来年6月の終着までしっかりと安全運行で進んでいただけたらと思います。

その安全運行をしっかりとサポートすることもメンバー一人一人の力だと思いますので、皆さん一丸となって来年6月の終着まで頑張っていきたいと思ひます。

特にネタも持っていませんので締めたいた思ひます。

それでは、原田カーナさんの今後益々のご活躍と皆さんの健康を祈念して一発で締めさせていただきます。

皆さんお手を拝借、

(一本締め)

ありがとうございました。

※小野寺君による KRC 版・特急列車風目的地到着のアナウンスが会場に流れる

本日のニコニコ献金

- 佐藤 貴之君 次男の野球チームが週末市内の野球大会で優勝しました。
- 村上 祐二君 今更ですが大型自動二輪の合格しました。

今年度累計 87,000 円